



CP-16001 (SEP型多目的起重機船)

第74期

中間期 株主通信

2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日

その先の向こうへ  
GOING FURTHER

 五洋建設株式会社

証券コード：1893

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに2023年4月1日から2023年9月30日までの、2023年度（第74期）第2四半期の事業概要ならびに今後の見通しにつきまして、ご報告申し上げます。



代表取締役社長

清水 琢三

### Q 2023年度上半期を振り返って、いかがでしたか？

A 新型コロナウイルス感染症が第5類へ移行し、個人消費やインバウンド消費の回復等により、緩やかな景気回復が続きました。建設業を取り巻く事業環境は、政府による防災・減災、国土強靱化加速化対策等による堅調な公共投資の継続ならびに経済安全保障等の観点からの民間設備投資の増加により、建設投資は官民ともに堅調に推移しました。その一方で、建設資材価格の高止まりが続いていることに加えて、建設需要が集中する地域において労務逼迫が生じています。

このような事業環境の下、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高2,786億円（前年同四半期比22.4%増）、営業利益133億円（同99.9%増）、経常利益130億円（同84.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益88億円（同82.7%増）となりました。

売上高は、国内の大型土木工事及び建築工事等が順

調に進捗したことにより前年同四半期に比べ509億円の増加となりました。また、利益面では、海外において主に為替変動の影響で工事損失が増加したものの、国内の完成工事高の増加と国内土木の完工総利益率の改善により完工総利益が大幅に増加し、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は、いずれも大きな増益となりました。

### Q 受注の状況と今後の見通しはいかがですか？

A 第2四半期の個別の建設受注高は、2,762億円（前年同期比18.1%減）となりました。国内は、前年同四半期に過去最大規模の大型港湾工事及び再開発建築工事の受注が含まれていましたが、今期はそれを補って土木1,272億円（同1.1%減）、建築1,308億円（同7.7%増）と前年同期並みを確保しました。海外は大型工事の受注がなく、182億円（同79.1%減）となりました。

下半期も受注環境は堅調で、通期は当初計画通り5,400億円の受注を見込んでいます。

## Q 新たな理念体系についてお聞かせください。

A 10月1日、サステナビリティ経営を推進し、五洋建設グループの全役職員に周知・浸透させるとともに、ステークホルダーに対して企業姿勢を明確にするため、新たな理念体系を定めました。

理念体系は、「経営理念」、サステナビリティ経営の「ビジョン」及び「マテリアリティ」、そして「行動規範」から構成されます。経営理念である「社会との共感」、「豊かな環境の創造」、「進取の精神の実践」は、これからも変わらず、当社グループの存在意義であり、大切にしている価値観です。

ビジョンとして掲げた「サステナビリティ経営を実践する真のグローバル・ゼネラルコントラクター ～サステナブルな建設事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献する」ことは、当社グループが目指す姿です。

このビジョンを達成するために重点的に取り組む事項を、本業との関わりの中で明確にしたものがマテリアリティ（重要課題）です。環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）の3つの領域、8つの項目から構成されています。

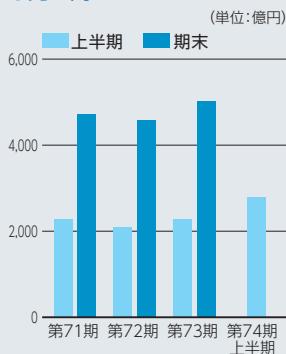
行動規範は、五洋建設グループの役職員一人ひとりが社会の一員としていかに行動し何を遵守すべきかの基準になるものです。高い倫理観とコンプライアンス精神がサステナビリティを支える根幹です。法令遵守、競争性や透明性、アカウンタビリティの確保に一層取り組み、公正で誠実な企業活動を徹底してまいります。

五洋建設グループは、事業活動において、技術に裏打ちされた確かな安全と品質の提供はもちろんのこと、ESGの観点からあらゆるサステナビリティの課題に真摯に取り組むことで社会の持続的発展に貢献します。

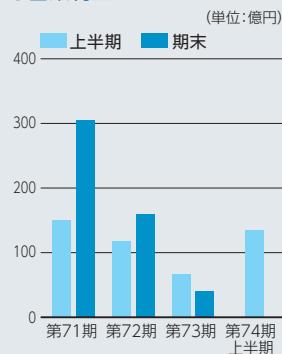
株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 【連結業績の推移】

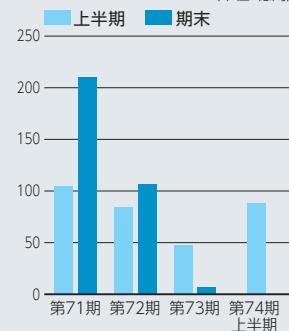
#### ◎売上高



#### ◎営業利益



#### ◎親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益



#### ◎自己資本比率



## サステナビリティ経営の実践

### ■理念体系の見直し

サステナビリティ経営の深化に向けた取組みの一環として、2005年に制定した、五洋建設グループの理念体系の見直しを行いました。



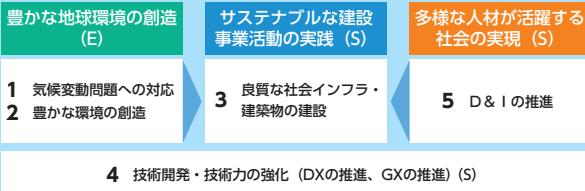
### サステナビリティ経営

#### ビジョン

サステナビリティ経営を実践する  
真のグローバル・ゼネラルコントラクター

～サステナブルな建設事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献する

#### マテリアリティ



#### (サステナビリティ経営の基盤)



※ (E) 環境、(S) 社会、(G) ガバナンス

【理念体系】 (2023年10月改定)



### サステナビリティ経営を深化させるための仕組みづくり

- ・国連グローバル・コンパクトへの署名 (22年12月)
- ・サステナビリティ経営の「ビジョン」、「マテリアリティとKPI」の開示 (23年5月)
- ・行動規範 (役職員の行動基準) の改訂・開示 (23年5月)
- ・理念体系の改定・開示 (23年10月)
- ・サステナビリティに関する全社教育実施 (23年10月～)



### 重要課題への取組み

- 人権の尊重
  - ・人権委員会の設置 (23年5月)、人権方針の開示 (23年6月)
  - ・人権DDの実施 (23年度：五洋グループ、24年度～：協励会社等へ拡大)
- 持続可能なサプライチェーン
  - ・パートナーシップ構築宣言 (20年11月)
  - ・マルチステークホルダー方針の開示 (23年5月)
  - ・持続可能なサプライチェーン方針、ガイドラインの策定・開示 (23年11月)
  - ・上記の協励会社、取引先への展開 (24年度～) (研修の実施、取引先等への周知、モニタリングの実施)
- D&Iの推進
  - ・女性活躍推進の優良企業認定「えるぼし (2段階目)」取得 (23年7月)
  - ・働き方改革の加速：時間外労働上限規制の遵守 (24年4月～)
- 気候変動問題への対応
  - ・TCFD基準に基づく積極的な情報開示 (22年5月～)
  - ・SBT (Science Based Targets) 1.5°C目標認証取得 (Scope1,2,3) (22年12月)

## SEP型多目的起重機船「CP-16001」完成

五洋建設株式会社（社長 清水琢三）、鹿島建設株式会社（社長 天野裕正）、寄神建設株式会社（社長 寄神正文）が共同で建造を進めていた1,600t吊クレーンを搭載したSEP型多目的起重機船CP-16001（以下、SEP船）が完成しました。マレーシア最大の国際的コングロマリットグループのKuok Singapore社傘下のPaxOcean Holdings社（シンガポール）がインドネシアのパタム島にある同社のGraha造船所で建造、9月8日に引渡式が行われました。

今後は、11月より北九州響灘洋上ウインドファーム建設工事で稼働を開始し、9.6MWの風車25基の基礎工事の一部と風車据付工事を行います。また、2027年以降本格化すると予想される一般海域の洋上風力発電プロジェクトにおいて、日本船籍の大型SEP船として活躍が期待されます。本SEP船は、日本の洋上風力発電の拡大に貢献するものと確信しています。



○響灘洋上ウインドファーム建設で稼働予定の作業船

### CP-16001の主な特徴

- ①最大吊能力1,600tの全旋回クレーン
  - ・15MW級の風車の設置、モノパイルやジャケット等の基礎の施工が可能
  - ・クレーンブーム長130m、デッキからのブームトップは147m
- ②広いデッキ面積（CP-8001の2倍以上）
  - ・風力タービン発電機を15MW級\_2基、9.5MW級\_4基まで搭載可能
- ③世界最新型の連続式油圧ジャッキシステム
  - ・毎分40cmの速度で連続したジャッキ昇降が可能
- ④大水深での施工が可能
  - ・水深約50mまで対応可能（レグ長：92.5m）
- ⑤高精度な自動船位保持装置（DPS）
  - ・4基のアジマススラスタを搭載、気象海象条件の悪い海域で高精度な位置保持が可能
- ⑥十分な居住スペース
  - ・居室81部屋（シャワー、トイレ完備）、最大100名の居住が可能
  - ・男女別の更衣室、洗濯室やフィットネスルーム、多目的ルームを備える



2隻目の大型SEP型多目的起重機船  
（1,600t吊クレーンを搭載）



日本初の大型SEP型多目的起重機船  
（800t吊クレーンを搭載）



多目的自航式起重機船  
（500t吊クレーンを搭載）

## ■ サステナブルな建設事業活動の実践

当社グループは、サステナブルな建設事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献するため、働き方改革や担い手確保の課題に対処しつつ、確かな安全と品質で顧客の信頼を確かなものとするべく、全社を挙げて建設事業活動のDX、省力化を推進しています。

### ■ DXの取組み(国内土木)

#### ● 笹原トンネル工事

○デジタルツイン(デジタル現場)を活用した施工と管理業務  
⇒生産性向上、品質管理の高度化を実現

・国交省の建設現場の生産性を飛躍的に向上するための革新的技術の導入・活用に関するプロジェクトに選定され、DXの効果を実証

目的：施工・管理業務(施工・労務・安全など)の生産性向上

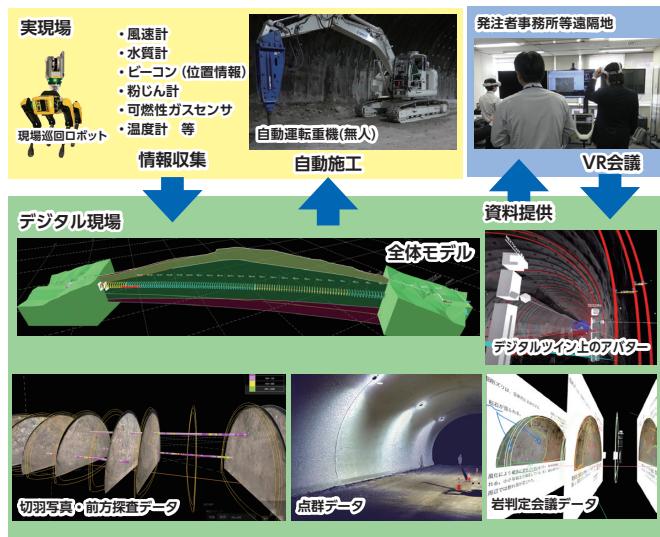
取組：計測・施工管理データをデジタルツイン(デジタル現場)に自動集約

- ①デジタル現場のデータを情報共有や提出書類に代替
- ②蓄積データから制御データを自動作成、建機を制御し無人自動施工
- ③デジタル現場にVR没入することで遠隔地から現場状況・進捗を確認

効果：①例) 岩判定会議資料(約400枚)を約90%削減

②例) 施工と状況監視人員を75%削減(従来4名→1名)

③例) 進捗管理・切羽観察等業務を50%削減 など



#### ● ESR川西ディストリビューションセンター造成・新築工事

○造成(土木)、新築(建築)の一体工事でのBIM/CIM活用  
○点群データとの組合せで設計を最適化、データ活用でICT施工推進

・点群データとBIM/CIM活用による設計最適化とICT施工への展開

目的：残土搬出(原設計：38万㎡)をゼロへ

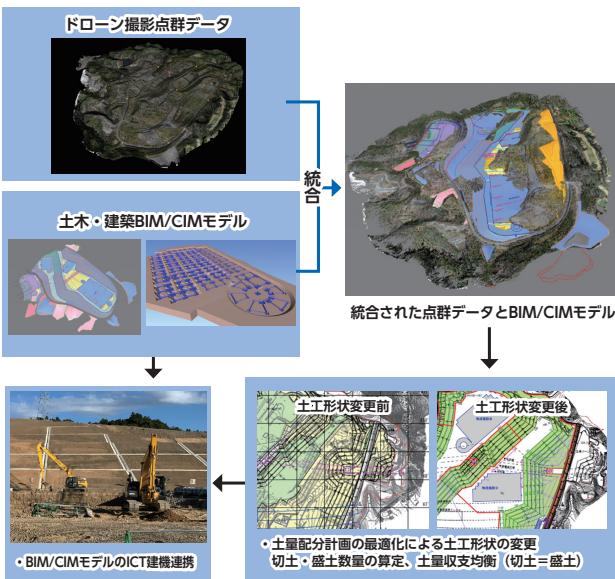
取組：ドローンで施工地の点群データを取得

造成工事と建築工事のBIM/CIMモデル化

点群データとBIM/CIMモデルを組み合わせ、土量収支最適化  
作成したBIM/CIMモデルをICT土工の基礎データとして活用

効果：残土搬出ゼロの達成(設計時)

フロントローディングによる品質・生産性の向上



## サステナブルな建設事業活動の実践

### ■省力化の取組み

#### ●小野建（株）静岡センター新築工事（国内建築）

外部足場の機械化、ユニット化の拡大（安全性と作業性の向上）

- 物流倉庫新築に一般的な枠組み足場ではなく、リフトクライマーを採用
- 地中梁鉄筋・型枠を地組ユニット化
- ⇒品質を確保した上で、より安全に、より効率的に

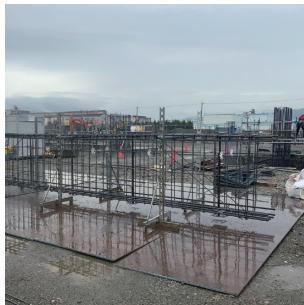
▷外部足場にリフトクライマー（移動昇降式足場）を採用

- ・通常の組立足場と比較して、高所での組立・解体作業を大幅に削減
- ・外壁、腰壁、外構工事の作業性、施工効率が大幅に改善
- ・全体工程の短縮



▷地中梁鉄筋・型枠を地組ユニット化

- ・地中梁鉄筋を地組み、ラス型枠を先行取付けしたユニットを製作
- ・ユニットごとにクレーンで吊り込み設置



地中梁鉄筋の地組み



ユニットの吊り込み作業

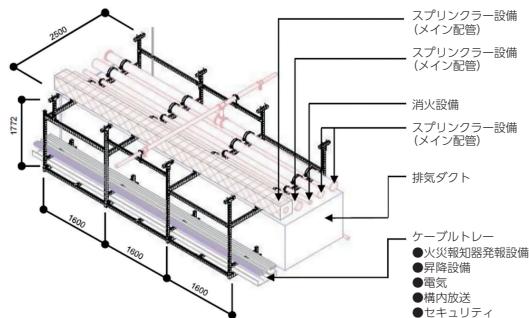
#### ●EXEO GLOBAL ビル新築工事（シンガポール）

設備のユニット化（DfMA\*1の推進）

- フロントローディングで、工場での製造・組立を容易にし、設備一式をモジュール化して現場に設置
- 工程短縮、品質確保、現場作業減少による安全性の向上

\*1：Design for Manufacture & Assembly：製造組立容易性設計

- ・BIMを活用し、配管や空調ダクトの製造・組立を設計段階から最適化
- ・配管や空調ダクトなど設備一式を纏めたモジュールを工場で製造・組立
- ・モジュールを現場納入し、設置する
- ・五洋子会社UG M&E社とエクシオグループ子会社のinner社が協働



○効果

- ・工期短縮
- ⇒従来工法と比較し、1カ月短縮
- ・品質の確保が容易
- ・現場作業（特に高所作業）減少
- ⇒安全性が向上



# >>> 連結財務諸表

## ●四半期連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)

科 目	前期末 (2023年3月31日現在)	当第2四半期末 (2023年9月30日現在)	科 目	前期末 (2023年3月31日現在)	当第2四半期末 (2023年9月30日現在)
<b>(資産の部)</b>	<b>508,179</b>	<b>559,349</b>	<b>(負債の部)</b>	<b>351,226</b>	<b>399,119</b>
流動資産	377,377	423,780	流動負債	303,943	343,990
現金預金	50,489	47,234	工事未払金等	124,327	129,011
受取手形・完成工事未収入金等	269,912	302,181	短期借入金	32,429	68,130
有価証券	11	11	コマーシャル・ペーパー	9,999	19,999
未成工事支出金等	15,396	21,336	1年内償還予定の社債	10,000	10,000
棚卸不動産	1,191	1,272	未払法人税等	1,551	4,554
未収入金	22,114	37,685	未成工事受入金	50,747	34,712
その他	18,566	14,468	引当金	15,086	13,367
貸倒引当金	△307	△409	その他	59,800	64,213
固定資産	130,802	135,569	固定負債	47,282	55,129
有形固定資産	91,763	94,901	社債	20,000	20,000
無形固定資産	3,660	3,589	長期借入金	21,265	29,081
投資その他の資産	35,378	37,077	再評価に係る繰延税金負債	3,679	3,679
<b>資産合計</b>	<b>508,179</b>	<b>559,349</b>	引当金	345	370
			退職給付に係る負債	1,511	1,547
			その他	480	450
			<b>(純資産の部)</b>	<b>156,953</b>	<b>160,230</b>
			株主資本	146,257	147,942
			資本金	30,449	30,449
			資本剰余金	18,386	18,386
			利益剰余金	97,931	99,879
			自己株式	△511	△773
			その他の包括利益累計額	10,588	12,289
			非支配株主持分	107	△2
			<b>負債純資産合計</b>	<b>508,179</b>	<b>559,349</b>

### 1 総資産・純資産

総資産は、受取手形・完成工事未収入金等と未収入金の増加により、前期末に比べ512億円増加し5,593億円となりました。純資産は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等により、前期末に比べ33億円増加し1,602億円となりました。

### 2 有利子負債

借入金の増加により、前期末に比べ535億円増加し1,472億円となりました。

●四半期連結損益計算書(要約)

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)	当第2四半期 (2023年4月1日から 2023年9月30日まで)
<b>3 売上高</b>	<b>227,669</b>	<b>278,561</b>
完成工事高	222,886	270,965
その他の売上高	4,782	7,596
売上原価	209,838	253,411
完成工事原価	206,018	246,973
その他の売上原価	3,819	6,437
売上総利益	17,831	25,150
完成工事総利益	16,868	23,991
その他の売上総利益	962	1,158
販売費及び一般管理費	11,159	11,810
<b>4 営業利益</b>	<b>6,672</b>	<b>13,339</b>
営業外収益	1,128	1,118
営業外費用	785	1,496
<b>経常利益</b>	<b>7,015</b>	<b>12,962</b>
特別利益	23	46
特別損失	102	61
税金等調整前四半期純利益	6,936	12,947
法人税、住民税及び事業税	2,155	3,974
法人税等調整額	△1	276
四半期純利益	4,782	8,696
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△37	△110
<b>5 親会社株主に帰属する四半期純利益</b>	<b>4,820</b>	<b>8,806</b>

**3 売上高**

国内土木の大型港湾工事、国内建築の手持ち工事が順調に進捗したことにより、前年同期に比べ22.4%増加し2,786億円となりました。

**4 営業利益**

国内土木の大型港湾工事等が順調に進捗し増収になったことから、売上総利益が大幅に増加し、前年同期に比べ99.9%増加の133億円となりました。

**5 親会社株主に帰属する四半期純利益**

営業外損益や法人税等を加減した親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に比べ82.7%増加し88億円となりました。

●四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

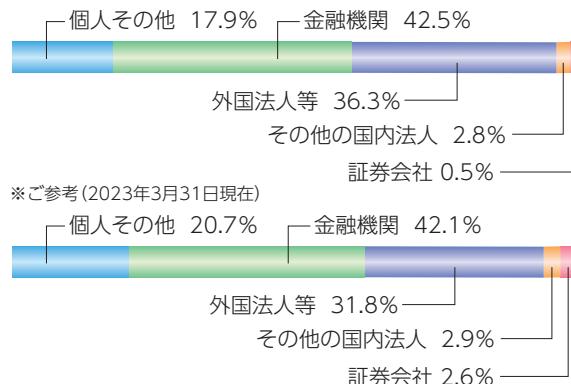
(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)	当第2四半期 (2023年4月1日から 2023年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,885	△44,734
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,015	△3,983
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,307	44,294
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,958	2,479
現金及び現金同等物の増減額	2,363	△1,944
現金及び現金同等物の期首残高	43,567	47,380
現金及び現金同等物の四半期末残高	45,931	45,435

## 株式の状況

発行可能株式総数…………… 599,135,000株  
 発行済株式の総数…………… 286,013,910株  
 株主数…………… 40,796名

## 所有者別分布状況 (株式数)

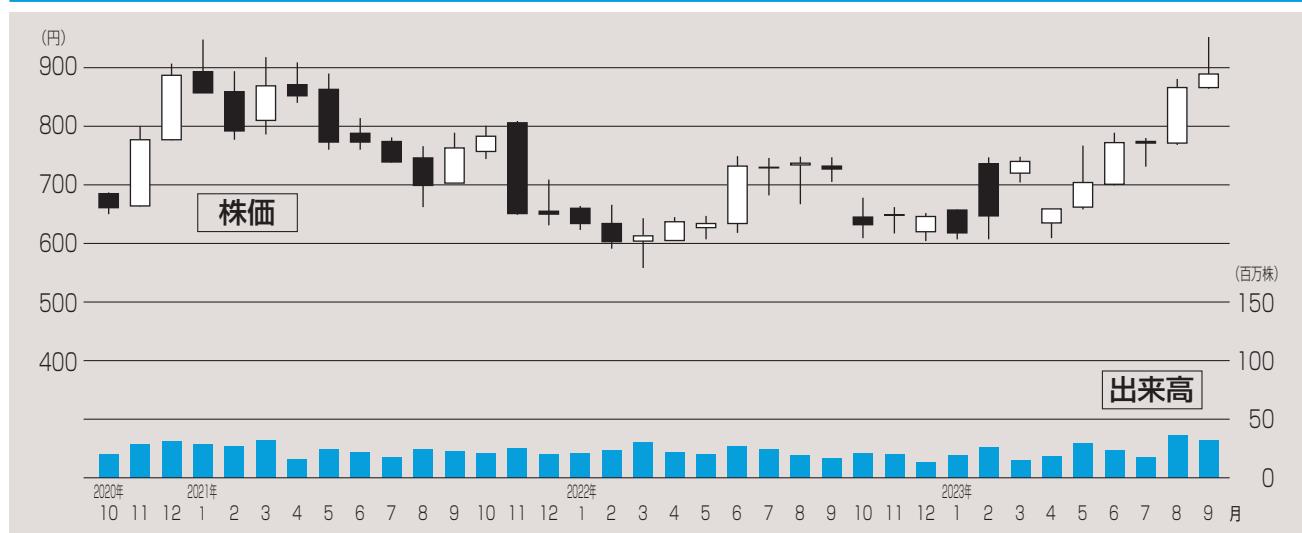


## 大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	48,026	16.8
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	31,524	11.0
GOVERNMENT OF NORWAY	8,517	3.0
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505001	7,697	2.7
株式会社みずほ銀行	7,059	2.5
明治安田生命保険相互会社	5,990	2.1
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	4,816	1.7
東京海上日動火災保険株式会社	4,763	1.7
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS- UNITED KINGDOM	4,551	1.6
ジュニパー	4,454	1.6

(注) 持株比率は、自己株式(211,493株)を控除して計算しております。

## 株価および出来高の推移状況



## 会社概要

商号	五洋建設株式会社 PENTA-OCEAN CONSTRUCTION CO., LTD.
創業	1896(明治29)年4月
設立	1950(昭和25)年4月28日
資本金	30,449,952,150円
従業員数	3,353人
上場証券取引所	東京・名古屋証券取引所
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人
主な事業概要	当社は建設業法により特定建設業者(特-3)第1150号として国土交通大臣の許可を受け、土木・建築ならびにこれらに関連する事業を行っております。また、宅地建物取引業法により宅地建物取引業者(14)第1635号として国土交通大臣の許可を受け、不動産に関する事業を行っております。

## 主要事業所

本店	112-8576	東京都文京区後楽2-2-8	03-3816-7111
札幌支店	060-0005	北海道札幌市中央区北5条西2-5 JRタワーオフィスプラザさっぽろ10F	011-281-5411
東北支店	980-8605	宮城県仙台市青葉区二丁目16-20 二丁目ホームプラザビル2F	022-221-0932
北陸支店	950-8501	新潟県新潟市中央区東大通1-2-25 北越第一ビルディング5F	025-246-1381
東京土木支店	112-0004	東京都文京区後楽2-6-1 住友不動産飯田橋ファーストタワー33F	03-3817-8890
東京建築支店	112-0004	東京都文京区後楽2-6-1 住友不動産飯田橋ファーストタワー24F (11月6日移転後)	03-3817-7600
名古屋支店	460-8614	愛知県名古屋市中区栄1-2-7 名古屋東宝ビル7F	052-209-8950
大阪支店	530-0014	大阪府大阪市北区鶴野町1-9 梅田ゲートタワー14F	06-6486-2100
中国支店	730-8542	広島県広島市中区上八丁堀4-1 アーバンビューグランドタワー7F	082-511-7900
四国支店	790-0011	愛媛県松山市千舟町4-4-3松山Mビル7F	089-935-5755
九州支店	812-8614	福岡県福岡市博多区博多駅東2-7-27 TERASO II 6F	092-475-5000
技術研究所	329-2746	栃木県那須塩原市四区町1534-1	0287-39-2100

## 海外営業所

国際部門シンガポール本社		
香港営業所	ベトナム営業所	インドネシア営業所
マレーシア営業所	エジプト営業所	タイ営業所
中東営業所	ミャンマー営業所	アフリカ営業所
デリー事務所		

## 取締役

代表取締役社長	清水 琢三
代表取締役	植田 和哉
取締役	野口 哲史
取締役	渡部 浩史
取締役	山下 朋之
取締役	日高 修
※取締役	川嶋 康宏
※取締役	高橋 秀斗
※取締役	中野 北斗
※取締役	関口 美奈

※印は社外取締役

## 執行役員

※執行役員社長	清水 琢三	
※執行役員副社長	植田 和哉	土木部門担当 兼 土木部門土木営業本部長
執行役員副社長	田原 良二	建築部門建築本部長 兼 安全品質環境担当
※専務執行役員	野口 哲史	土木部門土木本部長 兼 安全品質環境担当
※専務執行役員	渡部 浩史	建築部門建築営業本部長
専務執行役員	大下 哲則	土木部門洋上風力事業本部長 兼 土木部門担当(営業) 兼 ICT推進室長 兼 購買部担当
※専務執行役員	山下 朋之	経営管理本部長 兼 ICT推進室担当
常務執行役員	松山 章	南九州建設事業所長
常務執行役員	佐々木 毅	建築部門担当
常務執行役員	藤原 豊満	建築部門担当(営業)
常務執行役員	大津 義人	建築部門都市開発本部長
常務執行役員	中村 俊智	東京土木支店長
常務執行役員	関 浩一	土木部門担当
常務執行役員	山下 一志	国際部門担当
常務執行役員	吉田 成男	建築部門担当(建築技術)
常務執行役員	中橋 雅人	建築部門担当(営業)
常務執行役員	山口 和彦	名古屋支店長
常務執行役員	馬場 浩和	東京建築支店長
常務執行役員	河上 清和	四国支店長
常務執行役員	近藤 敬士	土木部門担当(土木企画、土木、環境)
常務執行役員	水谷 誠	土木部門担当 兼 国際部門担当
常務執行役員	川延 直樹	建築部門担当(設備)
※常務執行役員	日高 修	国際部門国際土木本部長
常務執行役員	小倉 征巳	九州支店長
常務執行役員	中村 武夫	土木部門担当
常務執行役員	田口 治宏	国際部門担当 兼 香港営業所担当
執行役員	伊原 成章	国際部門国際建築本部長
執行役員	谷川 純一	東北支店長
執行役員	田口 智	中国支店長
執行役員	福島 伸一郎	土木部門担当
執行役員	神林 一隆	建築部門担当(建築設計)
執行役員	櫻元 淳二	札幌支店長 兼 土木部門担当(洋上風力)
執行役員	生島 俊昭	大阪支店長
執行役員	水流 正人	技術研究所長 兼 環境研究所長
執行役員	清水 偉章	安全品質環境本部長
執行役員	小嶋 正弘	土木部門担当(船舶機械、洋上風力)
執行役員	金川 武雄	建築部門都市開発本部事業開発部長 兼 建築部門担当(営業)
執行役員	遠藤 淳一	経営管理本部経営企画部長 兼 財務部長
執行役員	佐々木 智子	CSR推進室長
執行役員	養 真弘	建築部門担当(営業) 兼 東京建築支店副支店長
執行役員	佐藤 本	土木部門担当(洋上風力)
執行役員	松本 英嗣	国際部門担当(土木)
執行役員	住田 佳津男	経営管理本部人事部長 兼 総合監査部担当
執行役員	中川 裕一郎	経営管理本部法務部長 兼 土木部門担当(洋上風力)
執行役員	齊藤 和重	土木部門担当

※は取締役兼務者である。

## 監査役

常勤監査役	稲富 路生
※常勤監査役	倉石 英明
※常勤監査役	菅波 慎久
※常勤監査役	竹林 久
※印は社外監査役	

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月に開催  
単元株式数 100株  
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号  
みずほ信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号  
みずほ信託銀行株式会社  
本店証券代行部

公告方法 電子公告にて当社のウェブサイト (<https://www.penta-ocean.co.jp/>) に掲載いたします。ただし、やむをえない理由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

剰余金の配当の基準日 毎年3月31日  
証券コード 1893  
なお、中間配当制度は採用していません。

### 株式に関する マイナンバーお届出のご案内

株式の税務関係の手続きでもマイナンバーが必要となりますので、株主さまのマイナンバーについては、お取引の証券会社等へお届出ください。

#### 株式関係業務における マイナンバーを記載する主な支払調書

- 配当金等に関する支払調書
- 単元未済株式の買取請求などの株式の譲渡取引に関する支払調書

#### マイナンバーのお届出に関するお問合せ先

- 証券口座にて株式を管理されている株主さま  
お取引の証券会社
- 証券会社とお取引のない株主さま  
みずほ信託銀行 証券代行部  
フリーダイヤル **0120-84-0178**

### 株式に関する住所変更等の お届出およびご照会について

#### 証券会社等に口座をお持ちの場合

- 郵便物送付先・電話お問合せ先・各種お手続き  
お取引の証券会社等になります。

#### 証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)

- 郵送物送付先  
〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4  
みずほ信託銀行 証券代行部
- 電話お問合せ先 (フリーダイヤル)  
**0120-288-324**  
(土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
- お取扱店  
みずほ信託銀行  
本店および全国各支店 (トラストラウンジを除く)
- 未払配当金のお支払  
みずほ信託銀行 (トラストラウンジを除く) および  
みずほ銀行

※支払明細発行につきましては、みずほ信託銀行の上記連絡先にお問合せください。

その先の向こうへ



〒112-8576 東京都文京区後楽2-2-8

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。



グリーンプリンティング認定制度を  
取得している工場で印刷しています。



環境保全のため、FSC® 認証紙と植物油インキを使用  
して印刷しています。



ミックス  
責任ある木質資源を  
使用した紙  
FSC® C022915